



国見っ子

令和3年度 第11号
国見町立国見小学校だより
令和3年 11月30日
発行者 校長 本多 康弘

深まる秋・冬に向かって

寒暖の差が大きくなりました。青空の下で鮮やかな赤や黄色に色づいていたあつかし山も、いよいよ冬支度が始まったようです。県内でも雪のたよりが聞こえてきました。

さて、感染症拡大も落ち着いてきたように感じます。まだまだ余談を許さない状況ですが、学校行事やPTA 活動を進めることができ、充実した秋にすることができました。1年間の折り返しを過ぎて、子どもたちの成長を感じることができた1ヵ月でもありました。保護者の皆様にも、ご理解とご協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。

たくさんの行事を行うことができました

11月は、たくさんの行事を実施することができました。いくつかをご紹介します。

～その様子は、各学年のお便りや学校のホームページをご覧ください～

学校 HP <https://kunimi.fcs.ed.jp/国見小学校>

○校内マラソン記録会

全校児童で取り組みました。ふくしま教育週間として、授業参観も実施し、多くの保護者の方に子どもたちの様子、学校の様子をご覧いただくことができました。子どもたちも自分の目標に向けて頑張っていたと思います。このような「頑張った」体験を称賛しながら、今後の学校生活に生かしていきたいと思います。

○宿泊学習～5年生～

5年生が郡山自然の家において、1泊2日の宿泊学習を行いました。1日目は、野外炊飯やフィールドワーク、キャンドルファイヤーなどに取り組みました。2日目は、コミュニティ福島で放射線や環境問題を学習しました。放射線や福島県の環境に関する展示、360度全球型シアターで学びました。多くの子どもたちが、「もう一泊したい」と話していました。貴重な体験活動になりました。

○国見町子ども議会～6年生～

6年生が国見町役場内にある本会議場において、自分たちで考えた町づくりについて町長様をはじめ町当局の方々から答弁をいただきました。公務多忙のところ、大変お世話になりました。

「地方自治は民主主義の学校」と言われています。身近な地域や行政に目を向け、自分の夢や希望を織り交ぜながら、未来の国見を考えるよい機会をいただきました。



読書

近年、インターネットやスマートフォンなどの普及によりライフスタイルが変化し、さまざまな情報が入手できるようになりました。メールやSNSを活用したコミュニケーションをはじめ、情報のデジタル化が急速に進みました。同時に、子どもたちの読書離れや活字離れにもつながってきています。

読書活動は、子どもの感性や表現力を豊かにするだけでなく、子どもが自ら考え、判断し、主体的に社会で生きていくために必要な知識や技能、意欲を育む重要な活動の一つと考えられています。子どもの読書習慣を形成する上でもっとも関わりが深いのは家庭であり、保護者の皆さんや周囲の大人からの継続的な働きかけがとても重要です。

国見町では、4・5・6のつく日は、「本を読む日」として家読活動を推進しています。学校では、朝の読書の時間や休み時間に読書をしている子どもをよく見かけます。ご家庭においても、短い時間や文章のものからでも継続した読書を進めていきたいものです。

ICT支援員 金子さくらさん 遠藤大樹さん

ICT 支援員として、金子さくらさんと遠藤大樹さんが勤務されております。主に、タブレット活用した授業サポートの校務にあたっていますが、全学年で学習指導や生活指導にもサポートしていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。